

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01

文学部非常勤講師： 作間 由美子 先生

専門科目で非常勤講師の立場から Blackboard を活用

作間先生の専門分野は児童文学。文学部と文学研究科の授業を担当されています。大学での滞在時間が限られている非常勤の立場からのご意見を伺いたく、2003年度秋学期のパイロット時から Blackboard を試用していただきました。作間先生は、大学での講義以外にたくさんの翻訳・著作や編集の仕事を通して子どもたちに本の楽しさを伝え、活躍しておられますから、むしろ【さくまゆみこ】のペンネームで多くの方が親しんでいることでしょう。福音館書店の児童向け月刊誌「たくさんのふしぎ」2004年2月号『エンザロ村のかまど』が発端で、人脈とお人柄から多くの本が集まり、2004年夏にはアフリカのケニアにあるエンザロ村に子ども図書館を設立。"サンタクロースおばさん"の一面もお持ちです。



科目の実施規模と Blackboard の活用

◆ 科目名：児童文学研究

専門特殊講義（英米児童文学）

◆ 授業の概要：世界の児童文学の特徴や問題点を、毎回のテーマに沿って考える。子どものための本の多様性を理解し、主な作品について知り、児童文学にまつわるトピックや児童文学が直面する問題について考え、自分なりの意見をもつことを目標にしています。

◆ Blackboard の活用：私の専門は児童文学で、上記の授業以外に大学院文学研究科の「翻訳論研究 / 英語圏児童文学翻訳研究 I」でも Blackboard を使いました。

学部の授業では毎回のテーマ（例えば「ファンタジー文学の変遷と現在」とか「昔話は残酷か？」など）に沿って、さまざまな作家や文献を具体的に提示しながら、学生と一緒に考えるという形をとっています。

そのためには多くの文献や資料を学生に見せ

たいと思うのですが、必要になる文献は毎回異なるうえに数も多く、非常勤講師には研究室もないため、それだけの教材を置いておける場所がありません。そこで必要な資料や教材のデータをパワーポイントに入れておいて、流れに沿って見せるという方法をとっています。ビジュアルな材料を導入することで、学生は理解しやすくなり授業時の集中度も増すので、授業の効果も上がるのではないかと考えています。

Blackboard に資料を掲載

4年生の受講生のなかには就職活動や教育実習などで欠席が多くなる者もいます。そこで私は授業で使用した画像や資料、および参考文献などを、毎回の授業の後で Blackboard に掲載しておくことにしました。これは、欠席した学生が授業内容について知るためにも有効ですが、出席していた学生が復習や確認をしたり、授業で触れたテーマを自分なりにもっと深めて

いくためにも有効だったのではないかと思います。受講生が Blackboard に挙げた資料をもとに考えを深めたり、掲載しておいた参考文献を実際に読んで感想を述べたりすることもありました。

復習を習慣化するために

今年度は、学生に復習の習慣をつけるため、また学生が授業内容を理解したかどうかを私が確認するため、授業後に Blackboard を通して毎回ミニレポートを提出させたり、ショートテストを行ったりしました。

最後にまとめて大きなレポートを提出させ



児童文学研究 アセスメント

るのとは質的な違いがありますが、毎週の小さな積み重ねが学生の興味を持続させることにつながり、また私の方でも説明の足りないところをチェックして次の授業に反映させることができました。

セメスターごとの改訂

この児童文学の授業では、セメスターごとに新たな要素を取り入れたり、内容の改訂を行ったりしています。また、ここ数年は文学部の学科改組に伴い、教材内容を変更する必要も出てきています。例えば英米文学部の授業だった時点では英米児童文学の作品を中心に取り上げていましたが、国際言語文化学科になってからは日本の作品や他の国の作品も同等に取り上げるようになっていきます。

Blackboard を利用すると、これまでの授業内容をアーカイブに残して参照できるし、毎回のデータや資料の提示についてもその用意をゼロから行う必要がなく、必要に応じての改訂も容易で、便利になりました。

非常勤の立場から

私は非常勤で学生といつでも連絡をとれるわけではないので、Blackboard の「アナウンス」で連絡事項を伝えたり、メール機能で質問を受けたり、「デジタルドロップボックス」でミニレポートを提出させたりしています。使い始めの頃は学生が不慣れだったせいで混乱もありましたが、その後は最初に Blackboard の説明をするようにし、学生のほうでも慣れてきたため、最近ではかなりスムーズに利用できるようになりました。



Blackboard@Tamagawa

第3回学内カンファレンス 2005年7月27日(水) 視聴覚センター104教室

第3回学内カンファレンスは、次のようなプログラムで活発な情報交換がなされました。

- ・山崎 旬先生 (農学部) コア科目および農場実習掲示板の活用事例
- ・山田 義照先生 (工学部) 外来講師によるオムニバス授業での活用事例
- ・大金 エセル先生 (経営学部) 英語ネイティブ教員の活用事例
- ・富永 順一先生 (教育学部) 教育実習等の学生への活用事例等
- ・橋本順一先生 (メディア教育推進室) 2005年度春学期における Blackboard @ Tamagawa 稼働報告
- ・メディア教育推進室教材作成支援アルバイト (大学院生) による報告

次回からは、学内にとどまらず、e-Education シンポジウムとして開催を計画しています。

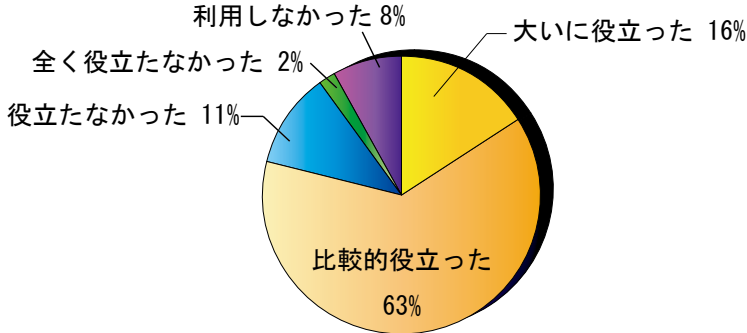
学生アンケートの結果から

2005年度 春学期末に実施した科目終了アンケートの回答から4項目を紹介いたします。

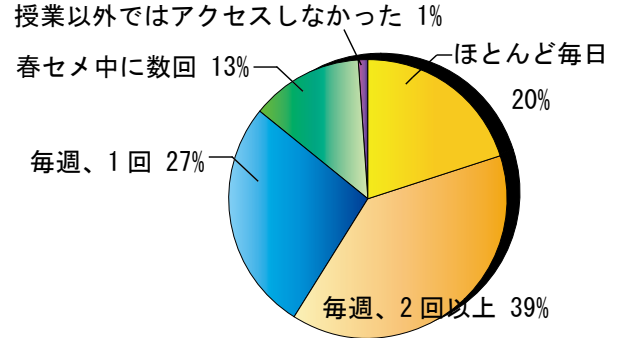
03

アンケート実施方法：Blackboard @ Tamagawa のアンケート機能（匿名）により回収。回答数：1,188名。回収率：17%

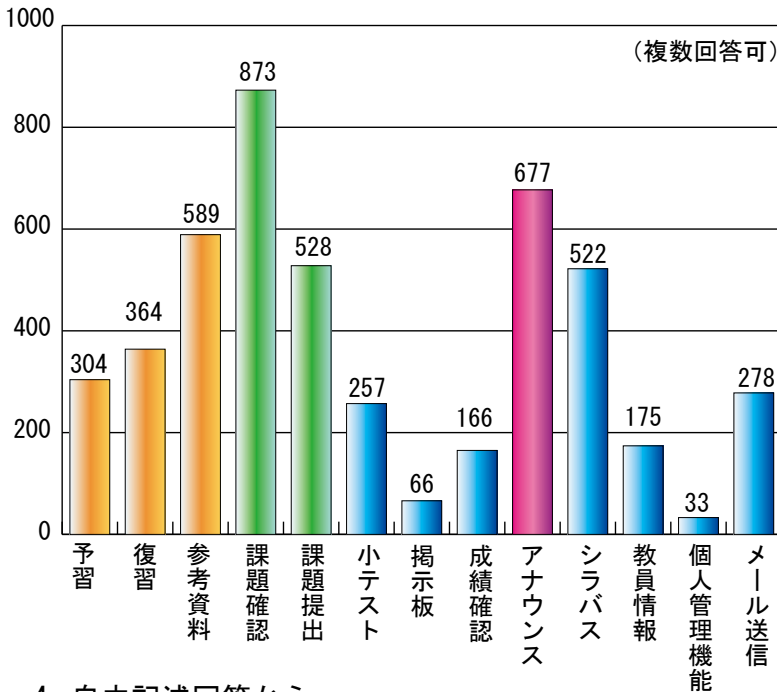
1. 授業の理解に役立ちましたか



2. Blackboard @ Tamagawa へのアクセス頻度



3. 役立った機能



約8割の学生が授業の理解に「大いに役立った」「比較的役立った」と回答。また、アクセス頻度については、毎週2回以上という学生が一番多く、週に1回以上という学生は、8割を超えています。このことから、Blackboard@ Tamagawa にアクセスするという習慣が、定着していると考えられます。

学生にとって役立った機能として「予習・復習・参考資料の閲覧」と「課題の確認・提出」、「アナウンス」が挙げられます。授業の補完としてのコース活用に役立っている結果といえます。

4. 自由記述回答から

- どこからでもできるのが、便利。
- 予習にも使うことができた。
- 自分で復習できるので、遅れをとらないように学習できた。
- 掲示板で、授業について様々な人の意見を聞いたり、返信することにより、授業内容をより深く考え、理解することができるので、とても良い。



- すべての科目を開講してほしい。
- 使い方のわからない部分がある。
そのため、いろいろな授業で積極的に活用するなどして使い方に慣れさせてほしい。
- 毎日パソコンを見ていないため、授業のアナウンスなどがすぐにわからない。
- Macintosh で文字化けすることがある。





Blackboard@Tamagawa

2005 年度 春学期のコース統計

Blackboard@Tamagawa（以下 Bb）は、2005 年春学期の全開講授業のうち約 36.5% で利用されました。（表を参照） 2004 年 4 月から活用が始まった全学共通授業支援システムですが、1 年半で約 $\frac{1}{3}$ の授業にまで、広がったことになります。

活用率の推移を見ると、全授業で Bb を利用している経営学部を除いて、2004 年秋から 2005 年春の活用率に大幅な増加が見られます。これは、2004 年度の授業で Bb を利用した先生方が、それ以外の担当科目でコースを開設した例が多く見られ、Bb の使い勝手の良さが多くの先生方に受け入れられていると考えられます。また中には、学生から先生に「コースを開設してほしい」との要請から開設されたコースもありました。

Bb で授業を 1 コース以上受講している学生は 2005 年度春学期は 87%（平均受講コース数 3.41 科目）でした。昨年は春学期 65%（平均受講コース数 1.91 科目）、秋学期 67%（平均受講コース数 2.05 科目）でしたので、活用が全学に広がっています。今後はさらに、先生方にとっても学生にとっても名実ともに、大学教育においてなくてはならない仕組みとして、Bb が定着することを願っています。

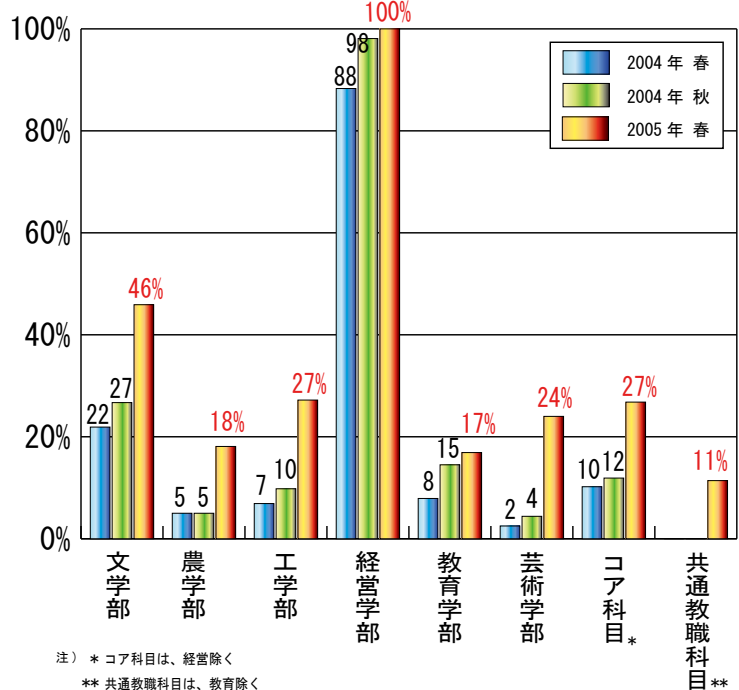
表. Blackboard@Tamagawa 活用状況 (経年)

	活用数①	授業数②	活用率③
2005 年 春学期	774 *	2122	36.5%
2004 年 春学期	502	3039	16.5%
2004 年 秋学期	562	2781	20.2%

* 春活用数前年比：272 増

- ① 活用数：②の授業内で Bb を活用した授業数
- ② 授業数：正式に登録され、開講された授業数
- ③ 活用率：授業のうち Bb を活用している割合
(=①÷②×100)

Blackboard@Tamagawa 活用状況 学部別 (経年)



編集後記

今回は授業活用を報告いたしましたが、授業に加え授業外で 142 コースが稼働しています。Blackboard のシステムは次期バージョン (リリース 7) が公開され、秋学期にパイロットを始めます (詳細は別途案内)。なお、Blackboard 操作説明、新規コース開講、教材作成の支援をご希望なされる時には、どうぞ、メディア教育推進室までご連絡ください。

e-Education NewsLetter 2005 Vol.3
2005 年 10 月発行

玉川学園・玉川大学
情報システムメディアセンター メディア教育推進室
東京都町田市玉川学園 6-1-1
Tel : 042-739-8820
Fax : 042-739-8825
eメール : dlhelp@tamagawa.ac.jp
URL : <http://blog.tamagawa.ac.jp/e-education/>